

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20530645

研究課題名（和文） 地域における継続的発達支援と大学臨床心理学資源の活用－システム構築への提言－

研究課題名（英文） The Practical Use for Continuous Supports to Child Development with Clinical Psychological Resource of University in Community－A Suggestion for the System Construction－

研究代表者

川瀬 正裕 (KAWASE MASAHIRO)

金城学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：80224781

研究成果の概要（和文）：

本研究では、地域の子どもの発達支援などへの、大学の臨床心理学資源を活用するシステム構築を以下のような内容で試みた。

- (1) 特別支援教育の実態調査を行い、体制の整備状況を明らかにした。
- (2) 児童・生徒のメンタルヘルスの評価と心理教育の実践研究を行った。
- (3) 小学校へ支援員として大学院生が赴き、実践的成果を蓄積した。
- (4) 保育園の統合保育に関する巡回指導などのニーズについて調査を行った。
- (5) 子育て支援に関する講演会と相談会を企画した。

研究成果の概要（英文）：

In this study, we tried to construct the system to support to the regional child development by practical use of the clinical psychological resources of the University like the following. (1) Special needs education survey, revealed that management. (2) Made a practical study of the evaluation of the students' mental health and psychological education. (3) Graduate students as an assistant for the pupils with development disorders in the elementary school, accumulated practical outcomes. (4) Conducted a survey about needs, such as patrol supervision on nursery schools. (5) Planned lecture on parenting support and consultation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：地域援助・継続的発達支援・大学臨床心理学資源

1. 研究開始当初の背景

特別支援教育が平成 19 年度から本格実施されており、発達障害をもつ子どもへの支援について、従来の特殊教育の制度ではなく、地域の学校で日常的に支援していくことが求められている。

また、児童・生徒のメンタルヘルスについても、治療的にかかわりのみでなく、予防的観点からのアプローチが求められている。

同様に、子育て支援、統合保育などについても専門的知識や技能が必要なかわりを地域の学校や保育園に求められる側面が高まっている。

そこで、それらの領域の専門的知識と技能を用いた、地域支援に生かすシステムの構築を視野に入れながら、子どもの成長に沿った包括的なかわりが必要と考えられる。

その一つの形態として、大学の臨床心理学的資源を利用した活動の意義が可能性として示唆されている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域・学校において、それぞれの発達段階に合わせた子どもの発達にかかわる包括的な支援を目指し、子育て支援、社会的不適応や発達障害の児童・生徒への学習および学校生活適応への支援、児童・生徒のメンタルヘルス評価・支援システムの探索などを通して、大学臨床心理学分野の資源活用の意義を確立することにある。

具体的には、

(1) 特別支援教育の実態調査

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学における発達障害児（者）への対応についての調査研究を行う。この調査によって、各学校の中での実情を把握し、臨床心理学的支援のニーズを明らかにする。

(2) 児童・生徒のメンタルヘルス評価・支援システムの研究

児童・生徒へのメンタルヘルスに関する調査を実施し、要支援児童の発見、支援計画の策定、個別支援計画の策定、クラス全体に対する支援の策定を行い、評価から支援への一貫したシステムの構築を行う。

(3) 児童・生徒への直接的支援の臨床研究

学校現場から要請のある児童・生徒に対して、個別の支援を行い、その方法、教材作成の研究、個別の指導計画の効果的策定と評価の方法を臨床的に検討する。

(4) 統合保育への支援の実践研究

障害児を受け入れている幼稚園・保育園を訪問し、教諭・保育士らとのコンサルテーション、保護者への面談などを行い、支援の効果について分析を行う。

(5) 子育て支援の実践研究

大学の地域支援活動として、子育て支援に関する講演会を行うとともに、その場での相談会を実施してその成果について分析を行う。

3. 研究の方法

(1) 特別支援教育の実態調査

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学における特別支援教育に対する意識および知識、発達障害児（者）の特性の理解、支援体制の整備などについての調査用紙を作成し、郵送で回答を求めた。その際に、各学校および幼稚園の「管理職」「特別支援教育コーディネーター」「担任」の3つの立場の教員に回答を求めて比較検討を行った。

(2) 児童・生徒のメンタルヘルス評価・支援システムの研究

児童・生徒へのメンタルヘルスに関する調査を中学校において実施するとともに、要支援児童の発見の視点、有効な心理教育の策定、クラス全体に対する支援の策定を行い、その効果について評価を行う。調査項目については、先行研究を参考にしながらバッテリーを組んで行った。視点の整理としてはグラウンデッドセオリーを用いて行った。

(3) 児童・生徒への直接的支援の臨床研究

学校現場から要請のある児童・生徒に対して、個別の支援を定期的に行い、その方法、教材作成の研究、個別の指導計画の効果的策定と評価の方法を臨床的に検討を行った。

(4) 統合保育への支援の実践研究

障害児を受け入れている幼稚園・保育園を訪問し、教諭・保育士らとのコンサルテーション、保護者への面談などを行い、支援の効果について分析を行う。また、巡回指導について、現場のニーズと、巡回指導員の意識について調査研究を行った。

(5) 子育て支援の実践研究

大学の地域支援活動として、子育て支援に関する講演会を行うとともに、その場での相談会を実施してその成果について分析を行った。

4. 研究成果

(1) 特別支援教育の実態調査

平成 19 年度に調査したものと、2 年後の 21 年度の調査においては、小・中学校においては意識の変革が確認されるとともに、校内の支援体制も整ってきたことがうかがわれた。しかしながら、高等学校、大学においてはあまり変化はみられず、今後の課題として明らかにされた。

また、回答者の立場によって、ニーズが異なることがデータとして示すことができた。

特に、担任教師は具体的な支援を求めていることが明らかにされた。

(2) 児童・生徒のメンタルヘルス評価・支援システムの研究

児童・生徒へのメンタルヘルスについては、要支援生徒のサインを受け取るには、自己記入式のメンタルヘルス調査とともに、教員の視点からの両者が必要であることが示唆された。

心理教育については、視点取得を促すプログラムや、ソーシャルサポートの有無などが大きく関与することが明らかにされた。

(3) 児童・生徒への直接的支援の臨床研究

学校現場から要請のある児童・生徒に対して、個別の支援を行ったところ、多くのケースで成果がみられた。その成果とは、問題行動の変容、学習意欲の促進、児童の自己評価の回復、クラス運営の円滑化、保護者の安定などに関与するものである。その中で、それぞれの取り組みから効果的な技法などの示唆が得られている。

(4) 統合保育への支援の実践研究

障害児を受け入れている幼稚園・保育園を訪問し、教諭・保育士らとのコンサルテーション、保護者への面談などを行ったところ、目標の明確化、教師、保育者の見通しの確立、保護者の情緒的支援などの効果が確認できた。また調査からは、保育園からは保護者対応の重要性と保育者自身の支援を求められていることが明らかにされた。これらは、巡回指導員の意識と一致する部分が多いことも確認された。

(5) 子育て支援の実践研究

大学の地域支援活動として、子育て支援に関する講演会には毎年、多くの一般市民の方の来場を実現でき、その意義については確認できた。また、その場での相談会にも申し込みを受けて、成果が確認されている。この講演会等は、通常の講演会とは異なり、大学院生らによる託児も含まれ、開場にも乳幼児を連れてはいることができるように工夫されており、その意味では大学の資源ならではの企画となっている。

なお、これらの成果の詳細については、「研究報告」として冊子にまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計6件)

①永原知佳・川瀬正裕・今村友木子・仁里文美・井手裕子 特別支援教育に関する実態調査－2007年度との比較検討－ 日本心理臨床学会第30回大会 2011年9月4日 福岡

市

②鈴木美樹江・川瀬正裕 スクールカウンセラーによる心理教育実践と効果 日本教育心理学会第53回総会 2011年7月25日 札幌市

③鈴木美樹江・川瀬正裕 中学校におけるメンタルヘルス尺度構成の試み－スクールカウンセラー活動の一環として－ 日本心理臨床学会第28回大会 2009年9月21日 東京

④鈴木美樹江・川瀬正裕 CRS(Child Rating Scale)日本語版作成の試み 日本教育心理学会第51回総会 2009年9月20日 静岡市

⑤永原知佳 特別支援教育の現状と課題－幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学の比較検討－ 第49回日本児童青年精神医学会総会 2008年11月7日 広島市

⑥飯田愛・松本真理子 通常学級において継続的個別支援を行った広汎性発達障害児の事例 第49回日本児童青年精神医学会総会 2008年11月5日 広島市

[その他]

[研究報告冊子] (計3件)

①川瀬正裕・仁里文美・今村友木子・加藤大樹・鈴木美樹江 「研究報告」 2012

②川瀬正裕・今村友木子・仁里文美・井手裕子・永原知佳 「特別支援教育に関する実態調査－2007年度との比較検討－」 2010

③永原知佳・川瀬正裕・松本真理子 「特別支援教育の現状と課題－幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学の比較検討－データブック」 2008

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川瀬正裕 (KAWASE MASAHIRO)
金城学院大学・人間科学部・教授
研究者番号：80224781

(2) 研究分担者

仁里文美 (NISATO FUMI)
金城学院大学・人間科学部・准教授
研究者番号：80350966

今村友木子 (IMAMURA YUKIKO)
金城学院大学・人間科学部・准教授
研究者番号：80342111

加藤 大樹 (KATO DAIKI)
金城学院大学・人間科学部・講師
研究者番号：00509573

鈴木 美樹江 (SUZUKI MIKIE)
金城学院大学・人間科学部・助教
研究者番号：20536081

井手 裕子 (IDE YUKO)
金城学院大学・人間科学部・助教
研究者番号：70513894

(3)連携研究者

松本 真理子 (MATSUMOTO MARIKO)
名古屋大学・発達心理精神科学教育研究センター・教授
研究者番号：80229575